

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第124回)

日本政府、AI戦略に本腰。G7での結果など

2023.06.09



最近、話題にならない日はないChatGPT。そこに注目すべき知らせが飛び込んできた。ChatGPT開発元の米OpenAIが、5月18日からiOS向け[「ChatGPT」アプリ](#)の提供をアメリカで、25日には日本やカナダ、ブラジルなど30カ国以上で提供を開始したという(生成AIに対し規制の厳しいヨーロッパでは、ポーランドなど少数国での提供にとどまっている)。スマホ用ChatGPTアプリ(Androidも提供予定)は無料で使用可能で、デバイス間で履歴を同期できるという。OpenAIの音声認識システム「Whisper」が統合されており、音声入力も可能だ。また、「ChatGPT Plus」(有料サブスク)ユーザーは、このアプリ上でGPT-4の利用や新機能の早期アクセス、応答時間の短縮などの機能が使えるという。

日本政府、生成AI対策に本腰。G7に向けて急ピッチ

さっそく使ってみたが、今までのようにWebブラウザで[ChatGPTのページ](#)を開くことなく使えて音声入力も便利になり、ChatGPTがさらに身近になったと感じた。ただ、相変わらずもっともらしい答えに対して信ぴょう性の確認に手間がかかるなと思う感覚は変わらない。

前回、ChatGPTをはじめとする生成AIに対し、日本と世界の捉え方の違いについて述べた。生成AIに積極的な姿勢を見せる日本。岸田首相は「G7広島サミット」直前のインタビューで「生成AIは経済、産業、社会を根底から変えてしまうぐらいのポテンシャルとリスクをはらんでいる」と述べ、生成AIを巡る国際ルールを作るための「広島AIプロセス」を早急に始動させたいと語っている。G7を終え、今後どのような動きが予測されるか考えていきたい。

G7での成果。「広島AIプロセス」「人間中心のルール」策定その他… 続きを読む